

# 私の雑感

府中市 金沢一男（大町五丁目出身）

毎月日比谷で開催されていたJネットサロンが上越市役所東京事務所閉鎖により、運営委員会事務局等は和久井理事の経営されている渋谷の事務所に移転されましたが、サロンも毎月開催され、前にも増して参加者が増加しているのではないのでしょうか。

私も毎月サロンに参加させていただいてますが、今までこのような会合に出る事はあまりありませんでした。上越出身の人達とおつき合いする機会はなかったのです。



これまでは人とおつき合いというのは会社関係だけでした。年をとってある年齢になると、人間の考え方というものはふるさとへ帰帰するのではないのでしょうか。また、会社につとめておりますが、私の誕生日を前に七月に開催されたJネットサロンに出席されたある方のふるさとのお話を聞いてふと感じた事がありました。ひとつは夢中で働いてきたこれまでをふり返って感じる年老いた自分でした。もうひとつは周囲を見てこれらの自分を考えた時に感じる、さびしさ、はかなさでした。今まで会社のためと思い、一生懸命働いてきましたが、ふと考えてみたら、年とって老いて行く自分は何であろうかと思いがいっぱいです。

そこで、これまで人とおつき合いが下手だったことを反省して、多くの人や

サークルに接し、ボランティア精神を発揮しながら色々活動したいと考えています。そういう中で、自分の健康に対する不安を克服しながら、少しでも意味のある人生を送りたいと思っています。「どのようにしたら人とうまくつき合えるか」これが今の私の最たる課題です。……何かよい方法は？

私は府中に住んでおります。府中市にある郷土の森博物館にあるやすらぎ池には大賀ハスがあります。この大賀ハスは植物生態学者の大賀博士が千葉市の検見川で見つけた古代のハスです。府中の自宅で発芽させ、各地に株分けされましたが、ふるさと上越のお堀にも大賀ハスがあるのではないのでしょうか。

上越の蓮の花をしばらく振りに見に行きましたが、いつ見ても田舎の風景はなつかしく、周囲の景色が建物等で変わっていましたが、蓮の花は昔と変わらぬ花を咲かせていました。

大賀博士は昭和二十八年に高田を訪れて、お堀の蓮の花を激賞されたとの事です。今回田舎へ帰って、Jネット交流会が植樹した桜や城跡などの写真をとってきましたが、今あらためて蓮の花の風景をなつかしく思い出しています。

ふるさとというのは、年をとってから

帰ったとき、自分のこれまでの人生を別の視点でふり返らせてくれると同時にこれからの人生を元気づけてくれると感じています。

